

みなさんご存じですか？ セーフコミュニティちちぶ。

昨年度実施した「安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート結果」では、セーフコミュニティ活動を「知っているか」について伺ったところ、「まったく知らない」が全体の約半分を占めている状況で、「よく知っている・少し知っている」を合わせても約18%の方しか知りませんでした。【図1】

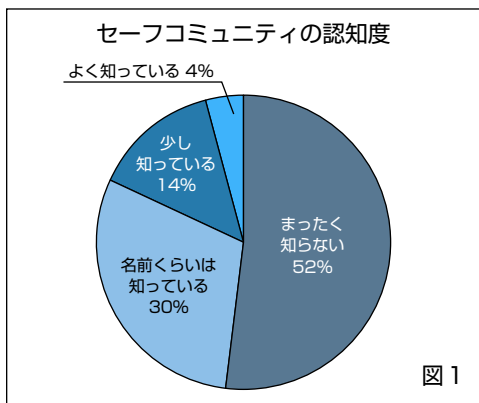


図1

また、セーフコミュニティへの関心度については、「とても関心がある・少し関心がある」が全体の約67%を占め、「まったく知らない」は約3%でした。【図2】

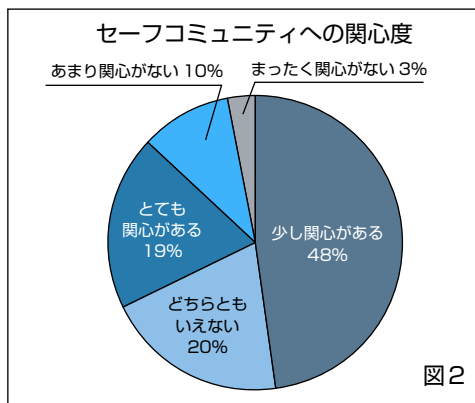


図2

このことから、セーフコミュニティの重要性は理解されているものの認知度が低いことがわかりました。

秩父市では、平成27年11月に国際認証を取得し、世界基準の安全・安心なまちづくりを進める都市として、セーフコミュニティの取り組みを推進しています。今後迎えることとなる「人口の急速な減少」、「高齢化社会の到来」、それに伴う「行政の財政規模の縮小」など、さまざまな環境の変化に対応するため、現段階から協働でまちづくりを進めるセーフコミュニティの取り組みが求められています。

「秩父市セーフコミュニティ」とは、大きく分けると、警察、消防、医療、福祉、経済、教育、そして行政機関など、市内で事故やケガの予防活動に関わっている37団体の代表者で組織される推進協議会と関係団体の実務者が委員参加している7つの対策委員会が組織されています。推進協議会では、セーフコミュニティ活動の方向性や重点的に行う内容を決定し、対策委員会ではそれぞれ会議を開催し、分野の課題に対する取り組みを検討・実施しています。



5月30日開催
第9回セーフコミュニティ
推進協議会

また、根拠に基づいた予防活動とするために、秩父郡市医師会の先生や大学教授、データを保有している病院・警察・消防・保健所などの実務者が委員として編成されている外傷サーベイランス委員会を組織し、各対策委員会へ参考となる情報の提供や取り組みのアドバイスをを行っています。

セーフコミュニティの活動は、行政だけでは成り立ちません。関係する団体の方々はもちろんですが、多くの市民の皆さんにも参加いただき、一緒に取り組んでいくことで、市内で発生する事故やケガを一件でも多く予防していくことを目指しています。

今年度も、引き続きセーフコミュニティ活動を推進するとともに、「市民安全・安心フォーラム」などの開催を通じて、多くの市民の皆さんに活動へ参加していただき、取り組みの普及・セーフコミュニティ認知度の向上を図っていきます。

セーフコミュニティとは

「事故やけがは偶然の結果ではなく、データの分析などにより予防することができるといふ基本的な考え方のもと、行政や関係団体、市民の皆さんが一体となり、「共助のまちづくり」を推進することで、質の高い安全・安心なまちづくりを構築していく活動です。

問 危機管理課 ☎ 22-2206